

日本産オオアブラムシ属のチェックリストおよび種の検索表
 A Check List of Japanese *Cinara* Curtis (Homoptera: Aphididae) with Keys to the Species

宮崎昌久・安田耕司*
 Masahisa Miyazaki and Koji Yasuda

オオアブラムシ属の分類

オオアブラムシの仲間は体長4～5 mm前後、アブラムシとしてはその名の示すように大型の部類に属する。マツ (*Pinus*)、エゾマツ (*Picea*)、トドマツ (*Abies*)、カラマツ (*Larix*)、ツガ (*Tsuga*) など、専ら針葉樹を寄主植物とする一群で、種によってそれぞれ寄主とする針葉樹の種類は限られている。ほかのアブラムシ類に見られるような寄主転換をすることはなく、周年針葉樹で繁殖し、若い枝から盛んに吸汁し、糖分に富み「甘露」と呼ばれたりする排泄物を大量に排泄するので、発生の多い林は甘露を培地にして発生するすす病で黒ずむほどであり、特に植林のために育てられる幼苗では生育不良が問題になる。

オオアブラムシ属として記載された種は世界で約200種にのぼる。アブラムシの総種数はおよそ4000種といわれているので、かなり大きなグループといえる。生態的にも形態的にもよくまとまっており、アブラムシのほかのグループからの識別は比較的容易であるが、一方、種のレベルでは形態的に近似したものが多く、分類・同定は甚だ困難である。

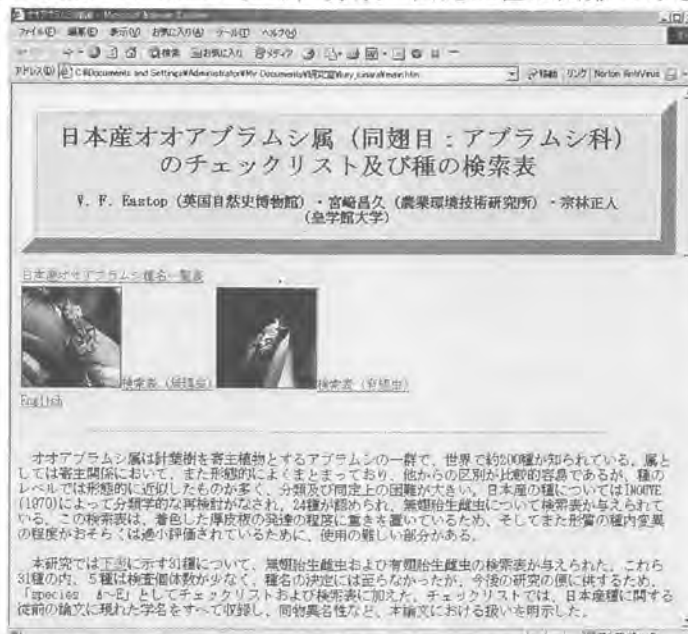


図1 日本産オオアブラムシ属のチェックリストおよび種の検索表のトップ・ページ

* 農業環境インベントリーセンター 昆虫分類研究室
 Insect Systematics Laboratory, Natural Resources Inventory Center
 インベントリー, 第1号, p.29-30 (2002)

日本産の種の分類・同定

日本産の種については Inoue (1970)によって分類学的な再検討がなされ、24種が認められている。アブラムシの生活環は複雑で、同一種の中かに有性世代と単為生殖世代があり、単為生殖世代には翅(はね)を持つ有翅虫と、翅のない無翅虫がいる。それぞれに異なった姿をしているが、すべての型の標本を揃えることは必ずしも容易ではない。Inoue(1970)は種の同定作業の便に供するため、無翅虫について検索表を作成した。この検索表では体表に現れる斑紋に重きが置かれている。しかし、この斑紋の種内変異の程度が過小評価されている嫌いがあり、この検索表を用いての同定作業には困難な点がある。

Eastop ら(1998)による「日本産オオアブラムシ属(同翅目:アブラムシ科)のチェックリストおよび種の検索表」(農業環境技術研究所資料第22号)では、アブラムシ類に関する最新の分類手法や情報を駆使し、日本産のオオアブラムシ属の分類が再検討された。得られた標本に基づいて31種が認められている。

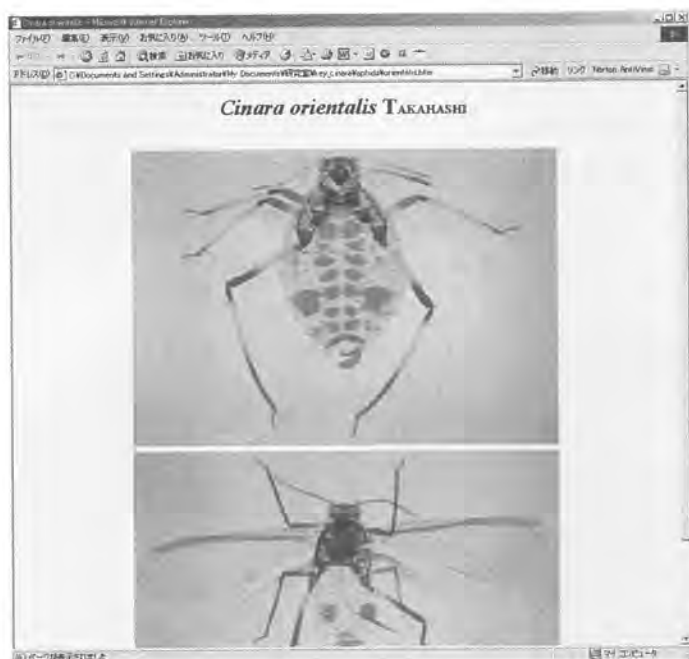


図2 プレパラート標本の写真

ホームページの構成

本ホームページ(図1)は、前述の資料の内容と構成をほぼそのまま電子化したものである。まずこれまでに日本から記録されたオオアブラムシ属の種名が総覧され、この研究で認められた31種と併せて、種のチェックリストが与えられた。このリストではシノニム(同物異名)や分類学上の問題点など、従来の記録に対して現在の知見に照らしつつコメントが付され、残された研究上の問題点についても言及されている。得られた標本に基づいて、有翅虫と無翅虫を対象として2つの検索表が作成された。この検索表が本資料の眼目であり、最新の知見を駆使してより正確

で分かりやすい同定作業のよりどころを提供している。また、種ごとにプレパラート標本の写真(図2)が添えられ、検索表の補助資料となっている。

利用法

近日中に、農業環境インベントリーセンター(昆虫分類研究室)のホームページで公開予定である。

問合せ先

農業環境インベントリーセンター 昆虫分類研究室 安田耕司

電話: 0298-38-8354, E-mail: kyasuda@niaes.affrc.go.jp